



県大会での上演(田村市文化センター：右写真も同じ)

飯館校演劇部の快進撃は続く

県立福島明成高校(福島市)敷地内の仮設校舎で学校生活が続く相馬農業高校飯館校。昨年12月に創部した演劇部が、相双地区代表として演劇コンクール県大会に出場。入賞を果たし東北大会へと駒を進めました。

11月25日から3日間にわたって開かれた第69回「福島県高校演劇コンクール」において、優秀賞第1席を獲得した飯館校演劇部。上演したのは、サテライト校の仮設校舎を舞台に、現在の学校生活を大切に思う生徒たちと、生徒の姿を求めてさまよう村内校舎の「ファントム(※幻影・亡霊などの意味)」との切ない出会いを描いた「ファントム オブ サテライト」飯館校の怪人」です。



今を大切に生きているということ
演劇だから伝わるんだと思う

菅野千那さんは「文字では伝わらないことが演劇では伝わる」と手応えを感じています。そして高橋夏海さんは「村のことを知ってもらえることがうれしい」とも。ちりばめられた真実の言葉と質の高い演技が胸を打ちます。公演にぜひ足を運んでみてください。

脚本の西田先生(ペンネーム・矢野青史)は「サテライト校だからいつかはなくなる。その思いに揺れながらも、ここで今こうして頑張っている。飯館校とこの部員たちのことを伝えたかった」と話します。村外出身の生徒が増加した現在の飯館校のこと、怒りをあらわにするファントムの深い悲しみ、村の人の思いについても全員で何度も話し合いました。「この芝居は飯館校の生徒にしかできません」。生徒と練り上げた脚本は創作脚本賞に輝きました。



西田直人さん
相馬飯館校演劇部顧問

真冬の高校演劇！ 明成×飯館 祭！vol.2

とき 1月24日(日)
飯館校 13:30～14:30
福島明成 15:00～16:00
ところ こむこむ(福島市早稲町)

観覧無料！

紹介します

この冬の2つのできごとを
つながりから生まれた
人との出会いや

重なる想い つながる力

100枚のオオカミ絵が佐須公民館に展示されました。写真資料をもとに当時の画法で復元を進めるのは東京藝大の大学院生ら約20人の皆さん。指導する荒井先生は「続く作業で携わる人はさらに増える」と話します。復元されたものが地元で公開されたのは初めてで、公開を企画した菅野さんは「やっとこの地に戻ってきた」と目を細めました。残る137枚の復元を待つ、本年5月には県立美術館で展示の予定。その後、神社に奉納され、拝殿の天井絵として蘇ることとなります。

一方、ニホンオオカミの絶滅に

この地域の皆さんの
力になりたかったのです



サイモン・
ワーンさん
和歌山大学
特任教授

加藤久美さん
和歌山大学
教授

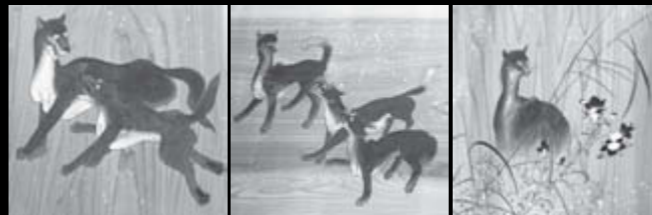
ついでに研究する和歌山大学の加藤先生がオオカミ絵を見るために山津見神社を訪れたのは3年前の冬でした。記録撮影を行うため、カメラマンでもある同大学のサイモン先生が同行しました。2人は描かれたオオカミのさまざまな表情や姿態に惹きつけられたそうです。そして地元の人々との出会いの中で「地域のつながり」が深く印象に残ったと言います。数か月の後、写真を届けようとした2人は、オオカミ絵の焼失を知ります。加藤先生は、復元を願う地域の力になりた、民間財団の助成を得てプロジェクトの道筋をつけました。そして、3年前に撮影したあの237点の写真の存在が、オオカミ絵の復元を可能にしたのです。



観覧する人でにぎわう公民館



再建された山津見神社では例大祭が行われました



焼失前の拝殿天井に237枚が掲げられていたオオカミ絵。先に復元された100枚が、11月28日、山津見神社の例大祭に合わせて佐須公民館で公開されました

蘇るオオカミ絵を 佐須でお披露目

平成25年の4月に起きた山津見神社(佐須)の火災で焼失した拝殿天井のオオカミ絵。その復元が、多くの人の力添えを得て進んでいます。地元の熱い期待と、復元を支える協力者の思いをお伝えします。

100年を超える未来へ
オオカミ絵を伝え残すために



菅野永徳さん
(佐須)
山津見神社
氏子総代

荒井 経さん
東京藝術大学
大学院准教授